令和元年度 第1回 嘉瀬川・六角川・松浦川学識者懇談会

かせがわ

嘉瀬川総合水系 環境整備事業

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化 後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



1. 嘉瀬川流域の概要 [嘉瀬川の概要と特徴]

嘉瀬川流域概要図



■各区間の特徴

【嘉瀬川上流部】

- 人工林を主体とした山間渓流となっており、河床には巨石や玉石が多く、アユやカワガラスなどが生息している。
- 平成24年3月、有明海から約30km上流に嘉瀬川ダムが完成した。ダム周辺は多種多様な動植物が見られる自然環境豊かな地域となっている。
- 北山ダム湖周辺でのキャンプや渓流釣り、河川公園等で<mark>水遊びを楽しむ姿が多く</mark>見られる。
- 川上峡付近は九州の嵐山と称される景観を有している。

【嘉瀬川中流部】

- ◆佐賀平野を流下し広い河川敷と狭い低水路からなり嘉瀬川大堰などによる湛水区間が大半 を占める。
- 復元された歴史的取水施設石井樋のある石井樋公園をはじめ、毎年11月初旬には佐賀イン ターナショナルバルーンフェスタの開催など河川利用が盛んに行われている。
- ●河岸には尼寺林(水害防備林)に代表されるマダケやモウソウチク、メダケ、ヤナギ類などの河畔林が存在している。

【嘉瀬川下流部】

- 有明海特有の大きな干満差の影響を受け広大な干潟が広がっており、水際にはヨシ原が繁茂し、干潟にはムツゴロウ、シオマネキやハラグクレチゴガニ、シギ、チドリ類が生息し、 ヨシ原にはオオヨシキリが生息している。
- •旧河道部に整備された「佐賀県立森林公園」は地域住民の重要なレクリェーションスポットとなっており、堤防天端は佐賀環状自転車道としての利用も行われている。

嘉瀬川の概要	流域面積	368km ²				
	幹川流路延長	57km				
	流域内市町村	3市(佐賀市・小城市・神埼市)				
	流域内人口	約12.5万人(平成22年度国勢調査)				

. 嘉瀬川流域の概要 [嘉瀬川の利用状況]

<嘉瀬川流域の利用状況>

- ◆ 嘉瀬川流域は、佐賀県中央部に位置し、流域内には県庁所在 地である佐賀市があり、沿川にはJR長崎本線、長崎自動車 道、国道34号などの基幹交通施設に加え、有明海沿岸道路、 佐賀唐津道路等、交通の要衝となっており、多くの人々が行 き交っている。
- ◆ 嘉瀬川ダムでは、マラソン大会やダム湖面を利用したボート 競技、嘉瀬川ダム感謝祭等の様々なイベントや、湿性地を利 用した野外学習等を実施しており、地域住民の交流の場と なっている。また、ダムの駅やパークゴルフ場などの周辺施 設はオープン以来多くの来訪者でにぎわいを見せている。
- ◆ 河床の巨石や玉石と周辺の山林が渓流景観を創出している上 流部は、キャンプや水遊び、渓流釣りを楽しむ人が多く見ら れる。又、九州の嵐山と称される淵上峡は景勝地として知ら れ、多くの観光客が訪れている。
- ◆ 中流部は、毎年11月初旬に100万人の観光客を集めて行われる 佐賀インターナショナルバルーンフェスタをはじめ、復元さ れた歴史的取水施設石井桶、公園、運動場、左右岸に広がる ゴルフ場など、河川敷は一年を通して盛んに利用されている。 石井樋公園に隣接する「さが水ものがたり館」は人々が川に 親しみ、憩い、集える交流拠点として多くの人が訪れている。
- ◆下流部の旧河道部には、芝生広場や野鳥観察所、野球場、 アーチェリー場などの施設を設けた「佐賀県立森林公園」が あり、地域住民の重要なレクリエーションスポットとなって いる。



嘉瀬川ダム湖 (ボート利用)



嘉瀬川ダム湖周辺(ダムの駅)

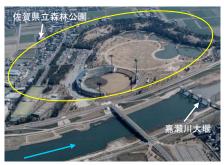




嘉瀬川中流部(石井樋公園)



嘉瀬川中流部 (佐賀インターナショナル バルーンフェスタ)



嘉瀬川下流部 (佐賀県立森林公園)

1. 嘉瀬川流域の概要 [嘉瀬川水系の目標]

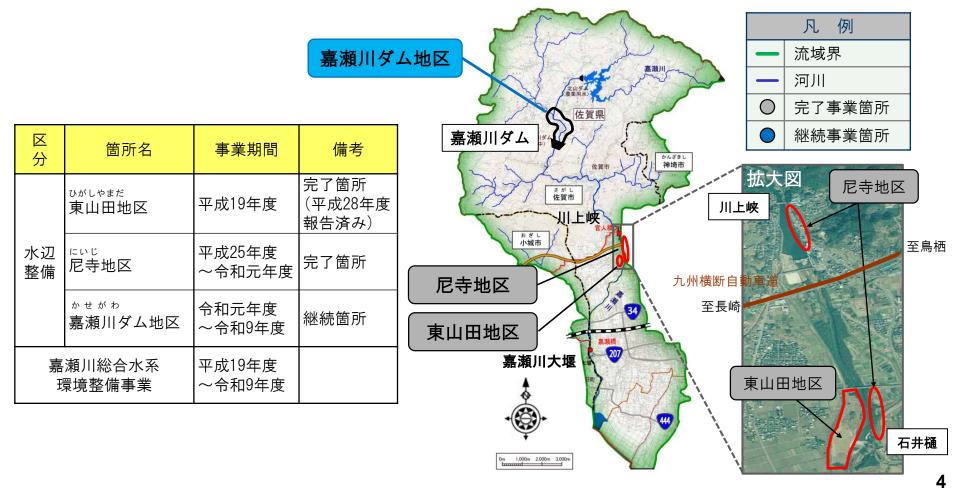
<河川環境の整備と保全に関する目標>(嘉瀬川水系河川整備計画抜粋)

- ◆治水・利水との調和を図りつつ、多様な動植物が生息・生育する豊かな自然環境を次世代に引き継ぐよう、瀬・淵を有する流れや水際環境、 上下流の縦断的な連続性を有する生物の生息・生育環境の保全・再生 を目指すこととしている。
- ◆嘉瀬川と流域の人々との歴史的・文化的なつながりを踏まえ、嘉瀬川 の流れが織り成す良好な河川景観の保全、形成を目指すこととしてい る。
- ◆川上峡や石井樋、尼寺林等の歴史的、文化的な価値ある資源・遺構については、治水・環境機能のバランスの取れた整備・保全を行うものとしている。
- ◆河川空間の利用に関しては、秩序ある利用を維持し、河川の持つ多面 的な機能が更に発揮されるよう努めることとしている。

嘉瀬川流域の概要〔嘉瀬川総合水系環境整備事業の概要〕

<事業評価(再評価)対象事業の概要>

今回は、事業が完了している尼寺地区の水辺整備、現在事業を継続中の嘉瀬川ダム 地区の水辺整備について事業評価(再評価)に諮るものである。



2. 尼寺地区の概要 [完了箇所]

<完了箇所の概要>

- ◆ 散策路の整備により、散策、水辺利用が可能になったことから、 多くの人々が利用しており、事業の効果は発現している。モニタ リング調査でも利用者の増加傾向がみられており改善措置の必要 性はないものと考えられる。
- ◆ 整備後は地域住民が中心となり定期的な竹の伐採など維持管理が 行われており、引き続き地域住民と共に実施していく。
- ◆ 事業実施による周辺環境の変化に関して問題及び指摘は特にない。 また、社会経済情勢についても大きな変化はみられない。

で理用通路整備、河岸保護工 管理用通路を備、河岸保護工 名護屋橋 の の の の に設道路等を活用じたネットワーク

【概要(整備内容·期間等)】

位置	嘉瀬川14k200~16k600付近(左岸)					
事業区分	水辺整備					
主な整備内容	管理用通路、河岸保護工、モニタリング 調査等					
事業費	2. 6億円					
事業期間	平成25年度~令和元年度					
整備完了年	平成26年度					

【整備後の利用状況】





【利用状況】

- ◆ 日常的に、散策による利用がみられる。
- ◆ 下流地区はさが水ものがたり館、石井樋公園と一体と なった環境学習等の利用、上流地区は花火大会等のイベ ントの際に観覧場所等に利用されている。
- ◆ 既設道路を活用し、ネットワークが形成されており、回 遊性がある。





2. 尼寺地区の概要 [完了箇所]

<事業の投資効果>

- ◆ モニタリング調査結果では、下流地区は安定した散策利用がみられ、上流地区ではイベント開催時(川上峡春まつり、花火大 会等)の利用者が特に増加傾向にある。
- ◆ 上流・下流とも散策、水辺利用が可能になったことから、整備後の利用者数は増加している。
- ◆ 下流の管理用通路は一年を通じて増加傾向であり、管理用通路とつながっている「さが水ものがたり館」や「石井樋公園」等、 一体的な利用が考えられる。
- ◆ 上流地区の官人橋周辺で実施されている川上峡春まつりは、整備後の来場者数が増加している ⇒目的とした事業効果が発現されている。

下流地区







上流地区







※川上峡春まつり:毎年3月中旬~5月下旬頃開催 6

3. 嘉瀬川ダム地区の概要 〔継続箇所〕

<継続箇所の概要>

(1) 事業の必要性等

- ◆ ダム湖面を利用したボート競技等の開催や、湿性地を利用した野外学習など多様なイベントが年間を通して開催されているが、段差等が生じており、利用しづらい状況にあり、安全に安心して利用できる整備が望まれている。
- ◆また、水源地域ビジョンの取り組み方針において、「人々が集うふるさとづくり」として、湖面利用・施設利用の取り組み、「美しいふるさとづくり」として、自然環境の保全・活用が掲げられていることから、地域、自治体、国が連携して推進している。
- ◆ 今後も、<u>ボート競技の会場としての利用や野外学習としての利用</u>が見込まれている。



【現地の状況】









3. 嘉瀬川ダム地区の概要 〔継続箇所〕

(2) 事業の概要・目的

- ◆佐賀市の進めるまちづくりの取り組みと連携しながら、<u>利用者の安全性の向上、巡視・管理の</u> 円滑化を図るため、管理用通路、河岸保護工、法面保護工等の整備を行っている。
- ◆令和元年度は、栗並地区の測量設計等を実施中であり、今後整備を進めていく。



【概要(整備内容·期間等)】

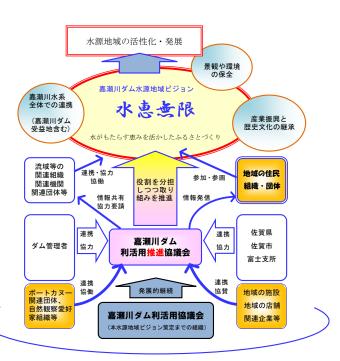
位 置	嘉瀬川ダム周辺
事業区分	水辺整備
主な整備内容	河岸保護工、法面保護工、 管理用通路、モニタリン グ調査等
事業費	2. 5億円
事業期間	令和元年度~令和9年度
整備完了年	令和7年度

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·										
主な工種			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
栗並地区										
	測量設計等									
	河岸保護工									
	法面保護工									
	管理用通路									
音無地区										
	測量設計等									
	管理用通路									
モニタリング調査										

3. 嘉瀬川ダム地区の概要 〔継続箇所〕

(3)事業の推進体制

- ◆平成24年4月から、地域住民、各種団体、佐賀県、佐賀市を含む行政機関で構成される「嘉瀬川ダム利活用協議会」(準備会含む)を設立し、平成25年3月に水源地域ビジョンを策定した。
- ◆水源地域ビジョンにおいて<u>「水源地域の景観保全」に取り組んでおり、地域が主体となった湖</u> 岸周辺の除草・清掃活動等の維持管理が実践されている。
- ◆「嘉瀬川ダム利活用推進協議会」により、地域活性化に向けた取り組みについて議論されており、その中で、「かわまちづくり」の検討を進め、平成30年3月に認定登録をうけている。







嘉瀬川ダム利活用推進協議会



嘉瀬川ダム利活用推進協議会体系

嘉瀬川ダムかわまちづくり(平成30年3月登録)

清掃活動状況

4. 前回評価時からの変化

項目	前回評価時 (平成28年度)	今回評価時 (令和元年度)	変更理由
総事業費	約5.8億円 【水辺整備】 ・東山田地区 : 約0.7億円 ・尼寺地区 : 約2.6億円 ・嘉瀬川ダム地区 : 約2.5億円		・集計世帯数を各自治 体の最新公表データ への更新による便益 の変更
整備完了年	令和9年度	令和9年度	
B/C	10. 1	10. 5	
B(便益)	約72.0億円	約84.8億円	
C(費用)	約7. 2億円	約8.1億円	

[※] B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払意思額と便益が及ぶ世帯数を 積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせることにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費 と完成後50年分の維持管理費を足し合わせることにより算出する。

4. 事業の投資効果 [費用対効果等]

<費用対効果等>

	事業区分		事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B/C	
1	全事業		5.8億円	_	84.8億円	8.1億円	10.5	
				3.3億円 —				
					_			
	完了事業	事業 水辺整備	東山田地区	0.7億円	高水敷整正、管理用通路、 階段護岸	36.5億円	5.6億円	6.5
			尼寺地区	2.6億円	管理用通路、河岸保護工、 モニタリング調査等			
				2.5億円				
				2.5億円				
	継続事業	水辺整備	 嘉瀬川ダム地区	2.5億円	管理用通路、法面保護工、 河岸保護工、モニタリング 調査等	48.4億円	2.5億円	19.2

	アンケート 実施時期	アンケート 手法	アンケート 配布数	有効 回答数	集計範囲	集計対象 世帯数	支払意思額 (円/月·世帯)
東山田地区	平成22年度	郵便	1,040票	191	半径10km圏内	14,793	196円
尼寺地区	令和元年度	郵便	1,600票	274	半径10km圏内	16,728	467円
嘉瀬川ダム地区	平成28年度	郵便※	2,000票	394	半径20km圏内 佐賀県市町	90,236	263円

[※] 嘉瀬川ダム地区は、嘉瀬川ダムから半径20km圏内の佐賀市かつ嘉瀬川流域内を対象とした郵便アンケート(2,000票配布)、及び嘉瀬川ダムから半径20km圏内の佐賀県内の4市 (佐賀市、神埼市、小城市、多久市)を対象としたWebアンケートを併用してアンケート調査を実施。

4. 事業の投資効果 [まとめ]

≪効果名≫

【効果の概要】

①便益の算出:約84.8億円

(良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等)

②歴史的文化を活かした教育効果:石井樋公園、さが水ものがたり館で一体となった利用の

場の創出

P5~6

③地域のにぎわいの創出 :イベントの際の観覧場所として活用、ボート競技等の開催

 $P5\sim7$

④治水安全性の向上 : 河川空間の利用者の安全性向上、巡視・管理の円滑化

P5、P8

⑤良好な自然環境の保全 : 地域が主体となった湖岸周辺の除草・清掃活動

湿生地を利用した野外学習

P7, P9

⑥費用対効果分析(算定に用いた効果①) 全体事業(B/C):10.5

継続事業(B/C):19.2

5. 事業の進捗の見込み・コスト縮減や代替案の可能性

(1) 今後の事業展開

◆嘉瀬川ダム地区においては、地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、令和元年度に事業に着手しており、令和7年度に整備を完成させる予定である。 令和6年度以降は、モニタリング調査等を実施し、令和9年度に完了予定である。

(2) 今後の事業の進捗の見込み

◆嘉瀬川ダム地区では、引き続き、水源地域ビジョンを推進していくための、「嘉瀬川ダム利活 用推進協議会」の開催や野外学習やボート大会など継続的な利用が予定されており、順調な事 業進捗が見込まれる。

(3) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

◆嘉瀬川ダム地区の整備内容については、「嘉瀬川ダム利活用推進協議会」で議論を重ね、河川 管理面、河川利用面、安全面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適 と考えている。

(4)コスト縮減の方策

◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、 事業を進めていく方針である。

6. 対応方針(原案)

- ◆地域住民、各種団体、行政機関で構成される「嘉瀬川ダム利活用協議会」が平成24年の設立当時から継続的に開催し、整備や利活用、維持管理等、地域活性化に向けた活発な議論を行っており、地域の協力体制が整っている。
- ◆ 嘉瀬川ダム地区では、市民の身近な娯楽や憩いの場として安全に、安心 して利用できる水辺空間の整備が望まれている。このため、管理用通路、 河岸保護工、法面保護工等の整備を行うものである。
- ◆ 費用対効果 (B/C) については、十分高い値である。

以上より、引き続き事業を継続することとしたい。